

# 都市再生整備計画 事後評価シート

## 東城地区

平成28年 12月

庄原市

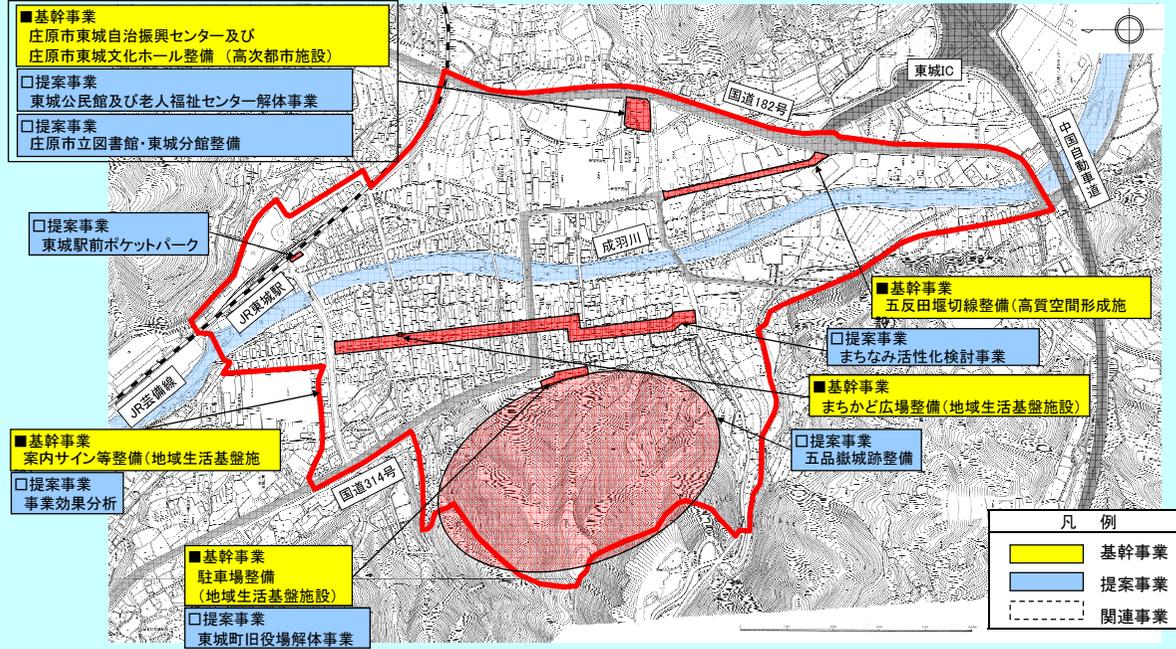
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	広島県		市町村名	庄原市		地区名	東城地区			面積	104ha		
交付期間	平成23年度～平成27年度		事後評価実施時期	平成27年度		交付対象事業費	851百万円	国費率	40%				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	地域生活基盤施設(広場、駐車場、案内サイン)、高質空間形成施設(五反田堰切線)、高次都市施設((仮称)とうじょう自治総合センター)									
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			基幹事業	道路事業(東城駅裏線支線)、公園(東城駅前ポケットパーク)			駐車場の位置変更に伴い、当初駐車場予定地へのアクセス道路として位置付けていた東城駅裏線支線を削除した。東城駅前ポケットパークは、提案事業として移行した。			なし			
	新たに追加した事業		提案事業	まちづくり活動推進事業(まちなみ活性化ワークショップ、資源散策ネットワークの検討)			左記2事業を当初はワークショップ形式で検討する予定であったが、H23に行つたまちなみ活性化WSで資源散策ネットワークに関する意見が出されたため、2事業を統合した「まちなみ活性化検討事業」へ統合した。			なし			
			基幹事業	-			-			-			
交付期間の変更		当初	平成23年度～27年度			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-				
		変更	-										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値					
	指標1	「まちなみぶらり散歩ギャラリー」及び「東城まちなみ春まつり」における会場数合計	箇所	144	H21	154	H27	-	143	△	あり なし ●	イベントの担い手となる地域住民の高齢化やマンネリ化により、会場数や出店数の伸びが見られなかった。また、事業開始時がイベントを始めて数年後で、最も盛り上がり始めた時期であった。ただし、会場数は維持できているといえる。	
	指標2	庄原市東城自治振興センター、庄原市東城文化ホール及び庄原市立図書館・東城分館の利用者数	人	46,900	H21	50,000	H27	-	48,231	△	あり なし ●	図書館は利用者が伸びているが、自治振興センター(旧東城文化会館)とホールの利用が低迷した。これは、建設工事に伴い陶芸教室等が開場場所を移動し、建設後も戻ってきていない等から利用回数が減るとともに、各種教室の1回あたりの利用人数も減っているためである。ただし、整備後の施設全体の利用人数は増加しているとともに、1人当たりの利用回数も増加している。(その他の指標参照)	
指標3	来街者向けイベントの入込観光客数合計	人	60,000	H21	65,000	H27	-	43,000	△	あり なし ●	天候不良や他の市町のイベントとの開催日重複等のため、目標値に届かなかった。また、観光客のほとんどがリピーターであるが、高齢化していることから、利用の伸びがみられなかった。なお、事業開始時がイベントを始めて数年後で、最も盛り上がり始めた時期であった。		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	庄原市東城自治振興センター、庄原市東城文化ホール及び庄原市立図書館・東城分館の東城町市民一人あたりの年間利用回数	回/年	5.05	H21	/	/	-	5.85(H27)	/	/	指標2は、目標値に届かなかったものの、住民1人当たりの利用回数は増加した。複合施設化により、利便性が向上したことが要因と想定される。	
その他の数値指標2	まちなみのシンボル「三楽荘」の開館日あたりの入館者数	人/日	58.02	H23	/	/	-	61.94(H27)	/	/	別途事業により平成22年7月に改修を行い、平成23年1月に登録有形文化財となっている。地域の資源として認知が進んだことから、イベント時をはじめとした利用者が増加した。		
4)定性的な効果発現状況	別添「魅力あるまちなみづくり支援事業」により、まちなみルールづくりを進める等、地域のまちづくりに対する意識の醸成が図られている。												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況						今後の対応方針等			
	モニタリング			なし						-			
	住民参加プロセス			東城まちなみ活性化ワークショップを開催。平成23年10/21～12/20に、分科会形式も含めて計6回の開催。延べ参加人数88人。						○ 別途事業も含め、地域住民が主体となったワークショップ等のまちづくり活動を継続して支援していく。			
	持続的なまちづくり体制の構築			なし						○ 既存の地域住民主体のまちづくり団体の活動を継続して支援していく。			

様式2-2 地区の概要

東城地区(広島県庄原市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
にぎわいや活力ある東城地区市街地の創出  目標①: 東城の「顔」である城下町を活かした、来街者が四季を通じてまた訪れたいくなるまちをつくる 目標②: 住んでいる人がくらし続けたい、住み続けたいと思えるように、明るく安全な楽しいくらしを確保し、住民活動の充実したまちをつくる 目標③: 庄原市の東のターミナルタウンとして機能した地域内外交流を促進する	「まちなみぶらり散歩ギャラリー」及び「東城まちなみ春まつり」における会場数合計	144	154	143
	庄原市東城自治振興センター、庄原市東城文化ホール及び庄原市立図書館・東城分館の利用者数	46,900	50,000	48,231
	来街者向けイベントの入込観光客数合計	60,000	65,000	43,000
	庄原市東城自治振興センター、庄原市東城文化ホール及び庄原市立図書館・東城分館の東城町市民一人あたりの年間利用回数	5.05	-	5.85
	まちなみのシンボル「三楽荘」の開館日あたりの入館者数	58.02	-	61.94



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の参画するまちづくりを進めることができたことから、既存のまちづくり団体をはじめとする地域住民の活動の支援が必要である。</li> <li>・五品獄城跡の整備により地区のシンボルづくりを進めることができたため、街道東城路を活かしたさらなる魅力の創出が必要である。</li> <li>・まちなかのにぎわい再生に寄与できたことから、さらなるにぎわい創出に向けて、依然として残る空き店舗や空き地の活用や駐車場の整備等による観光客の受け入れ体制の充実が必要である。</li> <li>・東城自治振興センター等の地域住民の文化活動を支援する拠点を創出することができ、また、案内サインの整備等により資源の周知を進めることができたことから、施設の利用促進や観光客の増加に向けた観光ルートや回遊ルートの設定とともに、情報発信やPRが必要である。</li> <li>・中長期的なまちづくりのきっかけや足掛かりができたことから、ハードの充実とともにソフト施策を交えた更なる展開が必要である。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備施設の機能を維持し、長寿命化を図るため、適切な維持管理を行う。</li> <li>・市民が主体となったまちづくり団体等と市の協働によるまちづくりに向けた取組みを継続する。</li> <li>・まちなかの魅力づくりに向けて、舗装の美化化や無電柱化、ファサードの整備等、まちなみの景観保全と向上を図る。</li> <li>・まちなかに存在する空き店舗や空き地を活用したにぎわい創出や、低未利用地等を活用した来街者の行動拠点となる駐車場を確保する。</li> <li>・資源の周知と利用促進に向けて、ホームページやガイドマップの作成等により、整備施設やイベント等の情報発信・PRに取り組む。また、整備した拠点施設や案内サイン等を活用した相乗効果を狙い、まちなかにおける周遊性の向上を図る。</li> </ul>